

しが はなとりであと  
獅子ヶ鼻砦跡



高天神城攻略の要

**大**石にある獅子ヶ鼻砦跡は、天正8(1580)年、家康が武田方の高天神城を攻める際に、高天神城を包囲するために整備した六砦のうちの一つです。徳川家の家臣大須賀康高が砦の管轄をしました。この六砦には、高天神城を孤立させ、補給を断つことで、兵糧攻めをする役割がありました。

獅子ヶ鼻砦は、六砦のうち、最も東側に築かれた砦です。他の5つの砦はすべて掛川市内にあります。駿河の方から攻めてくる武田方は、戦に必要な兵糧や武器を高天神城へ運び込む必要がありますが、当時は獅子ヶ鼻砦の東南側に沼地が広がっていたため、兵糧などを運び込むには、獅子ヶ鼻砦付近を通らなければいけません。徳川方は、そういったところに目を付け、砦を築き、兵に見張りをさせて兵糧などが運び込めないようにしました。

六砦の効果もあり、物資を運び込めなくなった武田方は、高天神城から出て戦を仕掛け、徳川方に討ち取られてしまいます。こうして高天神城は落城し、高天神城の攻防が終わったことで、獅子ヶ鼻砦も役目を終えることとなり廃城となりました。

現在の獅子ヶ鼻砦跡には、当時の曲輪や堀切(※)などの遺構が比較的的良好に残されています。



1獅子ヶ鼻砦跡の航空写真 2南東から砦を望む 3東側の登山道入り口 4頂上から東側の眺望。武田勢の動きを高台から見張っていた。 5頂上部は主曲輪として使われたため、平らに造成されている。 6頂上から西側の眺望。高天神城や小笠山が見える。  
※曲輪…尾根や斜面を造成して作った平らな場所 堀切…敵の侵入を防ぐために掘られた溝

高天神城の合戦と六砦

高天神城(掛川市)は、獅子ヶ鼻砦から3km西に位置する、標高132mの丘陵に築かれた山城です。山の地形を生かした守り易く攻め難い城で、さらに迎撃性にも優れており、「高天神を制する者は遠江を制す」とまで言われました。武田勝頼は、天正2(1574)年に大軍で高天神城を包囲しました。徳川方は、同盟関係にあった織田信長に援軍を要請しましたが、間に合わず、城兵の助命を引き換えに開城し、高天神城は武田方の城となりました。

家康は、高天神城を奪還するため獅子ヶ鼻砦・中村(山)砦・能ヶ坂砦・小笠山砦・火ヶ峰砦、三井山砦の六砦をはじめとする城砦群を築きました。これらにより補給路が遮断され、武田方の高天神城は孤立しました。

天正9(1581)年、兵糧を断たれ、味方の援軍もない武田軍は降伏開城を申し出ました。しかし、これを徳川軍が拒絶。武田軍は城から出て壮絶な戦いを展開しましたが、ついに敗北しました。